

令和 7 年 1 月 30 日

令和 6 年 台風 10 号接近時に避難入院の受け入れを行った事例について

紀南病院 地域連携室
室長 湊 俊貴

1. 経緯

令和 6 年 台風 10 号が接近する際、8 月 30 日～9 月 2 日の期間で避難入院の受け入れを行った。また、ご家族が同時に消防へ相談をしており、災害時の緊急避難入院として救急車で搬送となった。

8 月 28 日(水)午後、ご家族より避難入院について問い合わせあり。台風の進路が読めず、自家発電の準備はしているが、浸水した場合が不安との内容であった。翌 29 日時点で、台風による雨風の影響は少なく、紀伊半島に到達すると予測される日が週末になっており、ご家族との話し合いにより、早め(金曜日)の受け入れとなった。

日	月	火	水	木	金	土
				8 月 22 日 台風発生	8 月 23 日	8 月 24 日
8 月 25 日	8 月 26 日	8 月 27 日	8 月 28 日 ご家族から 問い合わせ	8 月 29 日 受け入れ・ 日程調整	8 月 30 日 避難入院	8 月 31 日
9 月 1 日 熱帯低気圧 に変わる	9 月 2 日 退院					

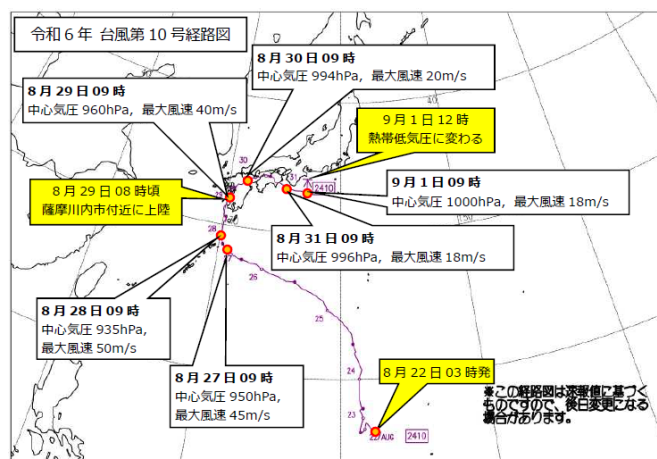
2. 患者様について

- ・ 60 代女性
 - ・ 筋萎縮性側索硬化症
 - ・ 定期的にレスパイト入院を利用
 - ・ 平成 23 年 紀伊半島大水害の発生時に居住地域が冠水
- ※ 被災当時、人工呼吸器は未導入

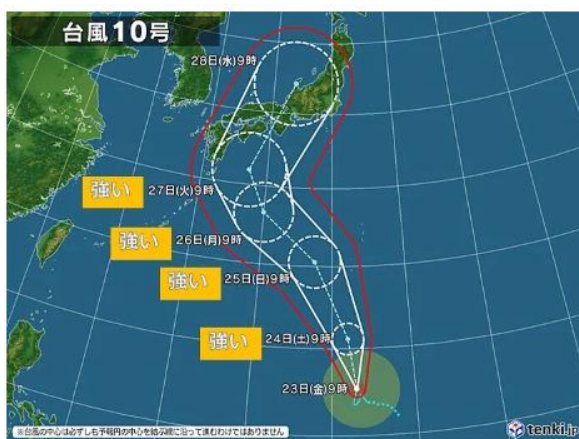
3. 台風 10 号について

8 月 22 日にマリアナ諸島で発生した台風第 10 号は、日本付近で動きが遅くなり、27 日に非常に強い勢力となって奄美地方に接近した。その後、進路を北に変えて非常に強い勢力のまま九州南部に接近し、強い勢力で 29 日 08 時頃に鹿児島県薩摩川内市付近に上陸した。上陸後は、遅い速度で勢力を弱めながら九州北部地方や四国地方を通過して東海道沖へ進んだ。台風は 9 月 1 日 12 時に熱帯低気圧に変わり、2 日 03 時までに不明瞭となった。

8 月 27 日(火)から 9 月 1 日(日)にかけて西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨。九州では暴風となり、海上では猛烈なしけや大しけ。宮崎県で突風が複数発生。(気象庁 災害をもたらした気象事例より)



- ・ 台風 10 号の予想進路の変化 (tenki.jp より)



8 月 23 日(金)



8 月 28 日(水)

4. 救急車で搬送について

ご家族から消防本部へ搬送の依頼があり、入院当日、救急車で来院となったことについて、搬送となった経緯を消防本部へ確認した。

消防本部の見解としては、「台風接近に伴い、カセットボンベ式の発電機は準備しているものの、停電が長期化した場合、人工呼吸器が使用できなくなる。」という依頼内容であったため、避難目的での搬送となった。冠水してしまうと搬送できなくなるため、台風接近中に雨が降っていなくても、早めに避難することは問題ないと判断した。

5. まとめ

進路予測が難しく速度の遅い台風 10 号が接近するなか、発表される情報と実際の天候にかなりの差が生じたため、受け入れを行った現場スタッフに少し動揺がみられたものの、平時からレスパイト入院を利用している患者様であったことから、比較的スムーズに避難入院の受け入れに対応できた。

本事例を検証することで、平成 23 年に紀伊半島大水害を体験したご家族の防災意識や発表される台風情報による心理変化、避難目的での救急搬送について消防本部の見解を知ることができ、有意義であった。